売買春に係る規制の在り方検討会
委員長　北川佳世子様
委員各位

買春処罰と同時に、売春の非処罰化と脱性売買支援を含めた法制定を求めます

２０２６年5月２７日
性売買経験当事者ネットワーク灯火

①『少女人身取引事件は、特別なことではありません』

「タイ人の 12 歳の少女が人身取引の被害に遭い性売買をさせられていた」と聞くと「かわいそう」という気持ちや「日本でそんなことがあるの？」と思う気持ちが湧くかもしれません。

でも、これは特別なことではなく日本国内で昔から今まで広く続いていることです。
私自身、性売買の現場にいたことを周りには話していないし、話したら驚かれると思います。そんなふうに、きっとあなたの身近にも性売買経験女性がいるし、そして、それより多くの買春経験のある男性が身近にいることと思います。

路上や風俗店などの性売買の現場では、女性が金銭によって商品として取引され、性行為を拒否や抵抗できない状況が作られています。これは人身取引であり人権侵害です。

性売買を経験した多くの女性が、性売買の現場で受けた身体的・精神的な傷を抱え、ケアされないままでいます。その上、その傷が被害ではなく自分の選択の結果・自己責任にされてしまっています。

しかし、この社会は女性が困窮した時に身体を売らせる社会であり、それを望んでいる男性たちがたくさんいるからこそ、私たち女性は性売買の現場に足を踏み入れてしまうのです。

女性に身体を売らせるために、女性は自立から遠ざけられ、男女格差が維持され続けています。男性たちは、まず自分たちがこの性搾取の構造を維持しているということを自覚してください。

現在の売春防止法は身体を売る女性を罰する法律です。でも、なぜ彼女たちが身体を売らざるを得ないのか、その背景に目を向ければ女性たちが性売買以外の選択肢を持てるよう

な社会的なサポートが必要だということに思い至ると思います。
日本社会の女性を性売買に追いやる構造を変えるためには、買春者処罰と、同時に売春の非処罰・脱性売買支援が必要です。（さとみ、３０代）

②『買うことはいっときの快楽でも、私にとっては一生の傷なのです』

初めまして、大学四年生のものです。私は上京して大学 1 年生、19 歳の頃に性売買の現場にいました。大学で勉強するために上京してきたけど日々の生活のお金が無い、将来のために貯金をしなければと足を踏み入れました。

私は普段、顔、実名を出して社会問題発信をしています。名前を出せるようになるまで時間がかかりました。それは私を買った人が SNS にあげたりするのではないのか、そして将来仕事につけなくなるのでは無いのかという不安があったからです。
今でもその不安は消えません。当時所属していたお店のホームページを見に行ったり、掲示板を確認したりしてしまいます。

頭では買う男性が悪いとわかっていても、自分の心や体の傷は一生癒えません。
買うことはいっときの快楽でも、私にとっては一生の傷なのです。
今でも思い出しては悔しくなります。

性売買は、一部の女性たちの話ではありません。
私は、友人や周りの人には性売買の経験を明かしていません。それでも数名の友人から、性売買を経験したという相談がありました。あなたの思っている以上に性売買は日常化しています。

性売買の背景には買う男性がいて、それが罰されないこと。そして性を売る女性が罰され、女性の経済的自立が難しいことが背景にあります。現状の法律である性を売る女性を罰するのでは、買う人がいる限り、性売買を無くすことは出来ません。女性の性を買うことを罰し、お金で女性を買えないようにしなければ、性売買は無くなりません。

また、先程お伝えしたように女性が罰されてる世の中では、性を売ることをした自分が悪いと、女性は自分を責め続け、一生の傷を負います。

責任を女性に押し付け、男性快楽中心の社会になっていることを自覚してください。これまでの歴史を見ても性売買は男尊女卑の世の中で生まれたものです。
そして、女性が性を売らなくても良いような社会を作ってください。
経済的支援とともに、女性の権利を守るような制度にしてください。

最後に、女性が尊厳を持ち生きられるためにも、今すぐにでも、買春を処罰すると同時に、女性を処罰しない法制度の制定をお願いします。（かのん、２０代）

③『性売買の中にいる女の子たちを責める法律を変えてください』

私は 14 歳で、性売買を始めました。
家にも学校にも居場所がなく、必要としてくれたのは、買春者たちでした。
行くところがなくて野宿していたとき、私に近寄ってきたのは買春者か、風俗店のスカウトだけでした。

「5000 円あげるからどう？？？」「どうせ行くとこないんでしょう」と買春を持ちかけてくるのは、サラリーマンや、このまま会社に行く人達、普通の人たちでした。
当時の私は、その人たちは、自分を必要としてくれるんだと、嬉しいことだと思い込んでいました。

私の周りには、そんな大人たちばっかりでした。

路上の性売買でも、風俗店でも、
嫌なことも嫌と言えず、ただ従うしかありませんでした。
そして、私は妊娠しました。
産むことも育てることも出来ないのが
現実でした。

体を売るしかない状況
今日を生きるためにそうせざるを得ない現実。
苦しかったしつらかったけど、そんなこと誰にも言えませんでした。
だからヘラヘラしていました。愛想笑いをして、楽しそうにふるまっていました。
これが楽しいことだ、必要とされているんだと思い込もうとしていました。
辛くても、生きるにはそれしかなかったからです。

その後、私は少年院に入り、夢乃さんに知り合い、Colabo に繋がりました。
あたたかいご飯、寝られる場所、見返りを求められない関係を得ることができました。
Colabo と出会って、嫌なことは嫌と言えるようになりました。

今は、性売買について私は
それをしなくてもいい社会を作るべきだと

考えています。

買春者たちは責められず、売った女が悪い。そんなのは間違ってます。
「体を売る女が悪い」と言う人がいるから、私も、自分のせいなんだと思っていました。
成人して風俗店や路上で体を売る状況の女性のほとんどが、子ども時代に私と同じような経験をしています。

性売買の中にいる女の子たちは、買春社会の被害者です。
困ったときに誰も助けてくれない社会の被害者なんです。

性売買から抜け出した後も、声をあげれば、顔を出せば、汚い目で見られ、
周りにいる自分の大切な人たちも、同じ目でみられます。

どうか、どうかお願いします。

性売買をする女の子の背景をみずに、ものを言うのはやめてください。
性売買をした女の子たちを責める法律を変えてください。
汚い目で見るんじゃなく、女の子が性売買をしなくてもいきていけるように、
１人１人の頭で考えて動いてください。（なお、２０代）

④『少女や女性が体を売らなくてもいい社会を目指してください』

買春処罰は当然であり法整備を進めるべきですが、
その上で、路上で体を売る人達がなぜそこに至ったかを考えてほしいのです。

本当に体を売りたくて売っている人はいません。

そこに対する支援をしなければ、根本的な問題は解決されず、問題は悪化する可能性すらあります。

体を売る女性達に対して処罰をするのではなく、
そもそも、そんな事をしなくても良い社会を目指すべきであり、
その為には何が必要とされるのか、今一度考えていただきたいです。（松本、２０代）

⑤『性売買のなかにいる女性が「処罰の対象」であり続ける限り、被害はなくなりません』

私の周囲の男性のあいだでは、買春は「飲み会の延長」や「男同士の付き合い」の一部として当然のように語られていました。
風俗はテレビやラジオでもカジュアルな笑いのネタとして扱われ、買う側に罪悪感やためらいはほとんどなく、それをおかしいと言うと、「空気が読めない」「面倒な女」とされ、自分のほうが浮いてしまうような空気がありました。

そうした環境で育ち、自分自身が生活に困ったとき、「自分でなんとかしなくちゃ」「こうするしかない」という考えしか思い浮かばず、性売買の中に吸い込まれていきました。

買春の話は軽い冗談や武勇伝のように扱われる一方で、私は後ろめたさを抱えていました。
自然と人間関係は、同じ店の女性やスカウトや業者、客といった性売買の中だけになっていき、社会と切断されていました。

そうして出来上がった大きな空白期間と、トラウマを抱えた状態で、外の社会と繋がり直すのは困難でした。
性売買から離れるまで、そして離れてから生活を取り戻すまで、長い時間がかかりました。

タイの少女の事件の報道に触れ、少女が捕まることを覚悟しながら助けを求めなければならなかったということに、過去の自分を重ねました。
買う側を罰するというだけで、この問題に蓋をしないでください。性売買のなかにいる女性が「助けられるべき被害者」ではなく「処罰の対象」であり続ける限り、被害はなくなりません。（ナツメ、３０代）